

先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/11/01

## 米「財政の崖」とスペイン・ギリシャ懸念

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ユーロ/円</a>	➡	欧州情勢睨みに回帰 予想レンジ: 100.00~106.50円	2-3
<a href="#">ユーロ/ドル</a>	➡	神経質な相場展開に 予想レンジ: 1.2750~1.3250ドル	4-5
<a href="#">ポンド/円</a>	➡	英国の追加緩和の行方は? 予想レンジ: 124.50 ~ 133.00 円	6-7
<a href="#">ポンド/ドル</a>	➡	テクニカルポイントにも要注意 予想レンジ: 1.5800 ~ 1.6310 ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



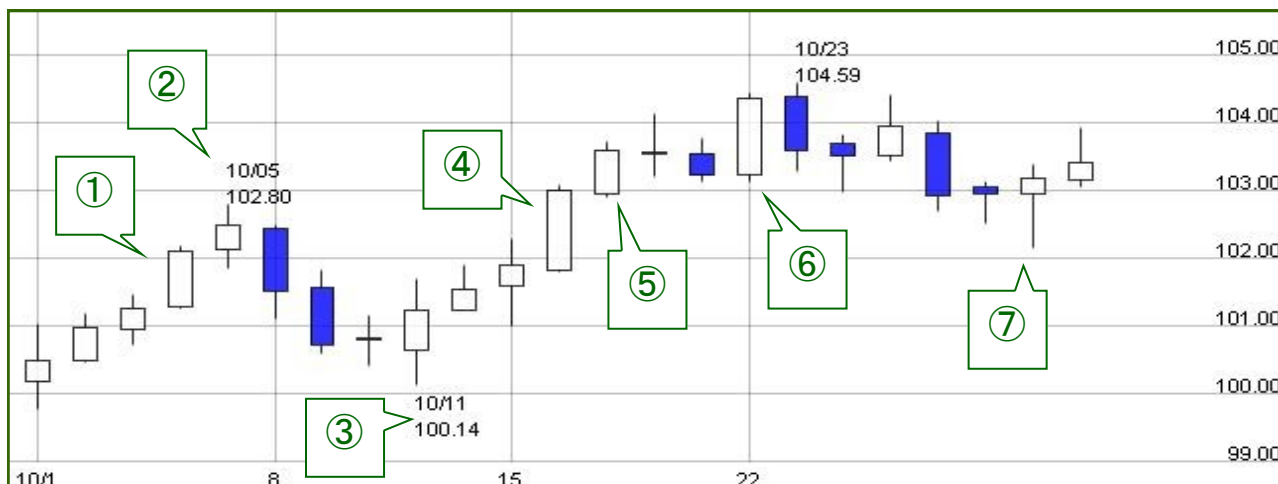
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

# EUR/JPY

## ユーロ/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	100.18円	104.59円	99.79円	103.43円



①	4日、欧州中銀 (ECB) は政策金利を0.75%に据え置くと発表。その後の記者会見でドラギ総裁が「全ての条件が整い次第、新国債買入れプログラム (OMT) を開始する用意がある」「利下げについては協議しなかった」などと述べた事を好感してユーロ/円は102円台を回復した。
②	5日、米9月雇用統計で失業率が7.8%と2009年1月以来の水準に低下した事を好感してNYダウ先物が上昇すると、ユーロ/円は102.80円まで上値を伸ばした。
③	11日、前日のNY市場終了後に、格付け会社S&Pがスペインの格付けを「BBBマイナス」へ2段階引き下げた事を嫌気してユーロ/円は100.14円まで下落した。しかしその後、「ソフトバンク社が米携帯電話3位のプリント・ネクステル社の買収を検討」と報じられると買収資金手当てのための円売りフローの思惑から円安が進行。さらに前原経済担当相が「日本は米国の同意なしに単独で為替介入を実施できる」と発言した事が円売りに拍車をかけると、ユーロ/円は101.71円まで上昇した。
④	16日、独10月ZEW景況感調査が-11.5と予想(-14.9)を上回った事などを受けてユーロが上昇。さらに独連立与党議員2人の話として「スペインが欧州救済基金の予防的信用枠を求める事に、ドイツは反対ではない」と伝わるとユーロ高が加速し、ユーロ/円は103円台を回復した。ただ、独議員の1人が「自身の発言が拡大解釈されており、スペインについて言及したわけではない」と発言すると伸び悩んだ。
⑤	17日、スペインの格付けを格下げ方向で見直すとしていた格付け会社ムーディーズが、スペインの格付けを据え置き、「スペインのリスクはECBのOMTで減少」などとする声明を発表した。これを受けてスペイン国債利回りが大幅に低下したほか、一部報道で「日銀が2014年度の物価見通しを下方修正するとともに追加緩和の検討に入る」と伝えられた事からユーロ買い・円売りが活発化した。
⑥	22日、日銀が30日の金融政策決定会合で追加緩和に動くとの思惑から円売りが先行。さらに格付け会社S&Pが日本の財政赤字について「赤字トレンドが現在のままなら日本の格付けを引き下げる可能性がある」などとの見解を示した事や、「本邦政府が日銀に対し20兆円規模の追加緩和を要請」とする観測記事が伝わった事も円売り材料となり、ユーロ/円は翌23日朝に104.59円の高値を付けた。
⑦	30日、日銀が金融政策決定会合後に資産買入れ基金の規模を11兆円増額する追加緩和を発表。緩和規模がほぼ事前報道 (10兆円) どおりだった事から急速に円買いに転じるとユーロ/円は102.17円まで下落した。ただその後は、スペイン第3四半期国内総生産 (GDP) が前年比-1.6%と予想(-1.7%)ほど減少しなかった事やイタリア国債入札が好調に消化され利回りが低下した事を好感して反発した。

## EUR/JPY

## 今月のポイント

10月のユーロ/円相場は99.79円～104.59円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.2%の上昇（ユーロ高・円安）となった。早々に100円台を回復して、中旬以降には104円台まで上値を伸ばしたが、ユーロに目立った買い材料があった訳ではなく、円が売られた結果による上昇だったと言えるだろう。ユーロ圏経済の下ブレ懸念に加え、スペイン・ギリシャへの懸念がくすぶり続けたものの、日銀による追加金融緩和を柱とする円売り（本邦企業による海外企業買収や貿易収支の悪化なども円売り材料となった）のほうが優勢であった。

11月については、日銀が10月30日の会合で2カ月連続の金融緩和に動いた事から20日に追加緩和を発表する可能性は低く、そうした期待が高まる事はなさそうだ。そうなると、ユーロ/円相場は欧州情勢睨みに回帰する可能性が高いと考えられる。13日の独ZEW景況感調査や23日の独IFO景況指数、30日のユーロ圏失業率（9月は11.6%と過去最高を記録）などの景気指標も注目されるが、それ以上に注目されるのは債務問題に絡むスペインとギリシャの動向であろう。スペイン政府は、今年の財政赤字の抑制目標が達成できる見通しとなった事や、今年の資金調達にほぼ目途が立っている事から支援要請を急がない構えである。ただ、こうした姿勢を強調しすぎると、ECBによる国債買い入れへの期待が剥落するためスペイン国債の利回り上昇につながる可能性があり注意が必要であろう。ギリシャについても、支援継続の方向に向かっているが、追加の資金支援や債務再編の可能性などに懸念が残っている。ギリシャ支援が議論される12日のユーロ圏財務相会合が注目されよう。（神田）

（予想レンジ：100.00～106.50円）

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(木)	10月中国製造業PMI	11/13(火)	EU財務相理事会
	10月米ISM製造業景況指数	11/14(水)	9月ユーロ圏鉱工業生産
11/2(金)	10月米雇用統計		10月米小売売上高
11/5(月)	10月米ISM非製造業景況指数		米FOMC議事録(10月23・24日分)
11/7(水)	9月ユーロ圏小売売上高	11/15(木)	第3四半期ユーロ圏GDP・速報値
11/8(木)	9月日本経常収支・貿易収支	11/20(火)	日銀金融政策決定会合(19日～)
	欧州中銀金融政策発表		10月米住宅着工件数
11/9(金)	10月中国消費者物価指数	11/21(水)	10月日本通関ベース貿易収支
	10月中国鉱工業生産	11/22(木)	11月ユーロ圏消費者信頼感・速報
11/10(土)	10月中国貿易収支	11/23(金)	11月独IFO景況指数
11/12(月)	第3四半期日本GDP・一次速報	11/27(火)	11月米消費者信頼感指数
	ユーロ圏財務相会合	11/28(水)	11月独消費者物価指数・速報
11/13(火)	11月独ZEW景況感調査	11/30(金)	10月ユーロ圏失業率

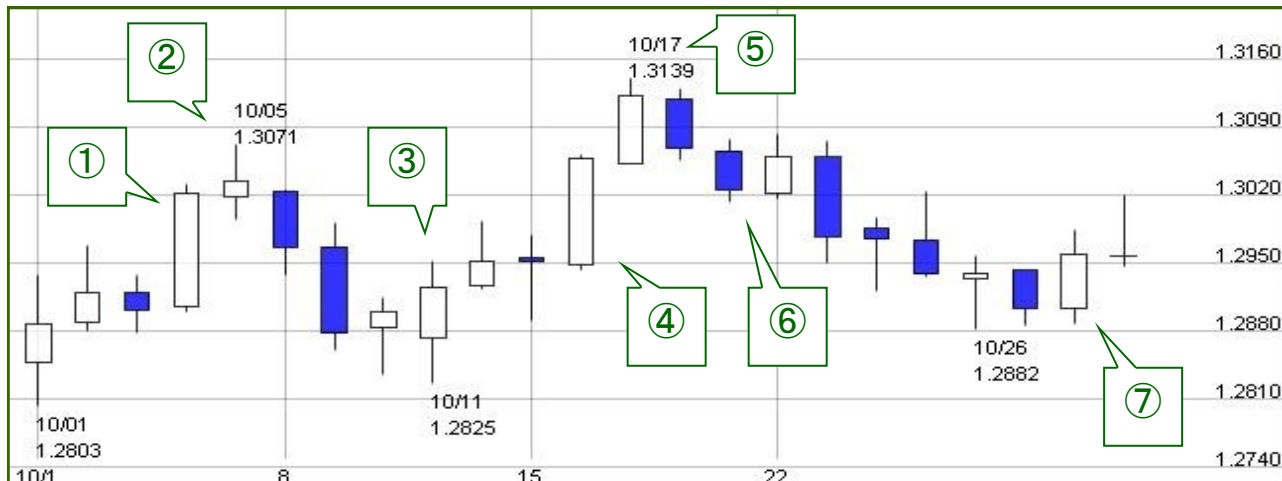
巻頭の特記事項を必ずお読みください。



# EUR/USD

## ユーロドル 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.2848ドル	1.3139ドル	1.2803ドル	1.2957ドル



①	4日、欧州中銀(ECB)は政策金利を0.75%に据え置くと発表。その後の記者会見でドラギ総裁が「全ての条件が整い次第、新国債買入れプログラム(OMT)を開始する用意がある」「利下げについては協議しなかった」などと述べた事を好感してユーロ/ドルは1.30ドル台を回復。さらに、NYダウ平均や原油価格の上昇も追い風となり、1.3031ドルまで上値を伸ばした。
②	5日、米9月雇用統計で失業率が7.8%と2009年1月以来の水準に低下した事を受けてユーロ/ドルは売り優勢となったが、失業率の大幅改善を好感してNYダウ先物が上昇すると買いに転じ、1.3071ドルまで上昇した。
③	11日、前日のNY市場終了後に、格付け会社S&Pがスペインの格付けを「BBBマイナス」へ2段階引き下げた事を嫌気してユーロ/ドルは1.2825ドルまで下落したが、欧州市場に入り、スペイン国債利回りの上昇が一服し、株価が上昇する中でユーロを買い戻す動きが強まった。ソフトバンクによる米企業買収の報道を受けてユーロ/円が上昇した事もユーロ/ドルの上昇につながった。
④	16日、独10月ZEW景況感調査が-11.5と予想(-14.9)を上回った事などを受けてユーロが上昇。さらに独連立与党議員2人の話として「スペインが欧州救済基金の予防的信用枠を求める事に、ドイツは反対ではない」と伝わるとユーロ高が加速し、ユーロ/ドルは1.3061ドルまで上昇した。しかしその後、独議員の1人が「自身の発言が拡大解釈されており、スペインについて言及したわけではない」と発言すると伸び悩む場面もあった。
⑤	17日、スペインの格付けを格下げ方向で見直すとしていた格付け会社ムーディーズが、スペインの格付けを据え置き、「スペインのリスクはECBのOMTで減少」などとする声明を発表した。これを受けてスペイン国債利回りが大幅に低下するとユーロ/ドルは1.3139ドルまで上昇した。
⑥	19日、前日から行われていた欧州連合(EU)首脳会議が閉幕。銀行監督一元化の法的枠組みを年内に整備することで合意したものの、スペインやギリシャの支援については実質的な協議が見送られた。こうした中、スペインのラホイ首相が「(欧州救済基金に)支援を要請するかについてはまだ決定していない」などと発言した事がユーロ売り材料となった他、米ゼネラル・エレクトリックなどの冴えない企業決算を受けてNYダウ平均が下落した事もあってユーロ/ドルは1.3013ドルまで下落した。
⑦	30日、スペイン第3四半期国内総生産(GDP)が前期比-0.3%、前年比-1.6%と、スペイン中銀が先に示した見通し(-0.4%、-1.7%)ほど悪化しなかった事や、イタリア国債入札が好調に終わり利回りが大幅に低下した事を受けて、ユーロ/ドルは1.2983ドルまで上昇した。

## EUR/USD

## 今月のポイント

10月のユーロ/ドル相場は1.2803ドル～1.3139ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.9%の小さな上昇(ユーロ高・ドル安)となった。5日の米雇用統計を受けてNYダウ平均が一時リーマンショック後の高値を更新するなど、一旦はリスクオンに傾きかけたが、その後は、米企業の7-9月期決算に冴えないものが目立った事や、スペインが支援要請を渋る姿勢を続けた事などから楽観ムードが萎んだ格好となり、ユーロは伸び悩んだ。

11月のユーロ/ドルは、米大統領選挙とその先に控える「財政の崖」問題、及びスペイン・ギリシャの動向を睨んで神経質な相場展開となりそうだ。11月6日の大統領選と議会選挙の結果を受けて、大統領府と議会(上院と下院も含めて)の支配政党が異なる「ねじれ」が続けば(続く公算が高いと見られている)、来年1月に歳出削減や増税が自動的に行われる「財政の崖」を回避する事が困難になりかねない。これは、一次的にはドル売り材料となるが、リスク回避のにつながる可能性もあるため、ユーロ高に大きく振れる事も考えにくい。

スペインについては、今年の財政赤字の抑制目標を達成できる見込みとなっており、長期金利も危険水域を大きく下回っている。ただ、これが同国の支援要請(救済基金への)を遅らせる事になれば、市場は失望する事になり、ユーロの補強材料とは言いづらい。ギリシャについても、財政目標の達成時期を2年延長させる公算が大きくなったものの、その場合には追加の資金支援が必要になる可能性があり、債務再編の可能性も不安視されている。ユーロ圏財務相会合のユンケル議長は「12日の財務相会合でギリシャ支援の結論を出したい」としている。(神田)

(予想レンジ:1.2750～1.3250ドル)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

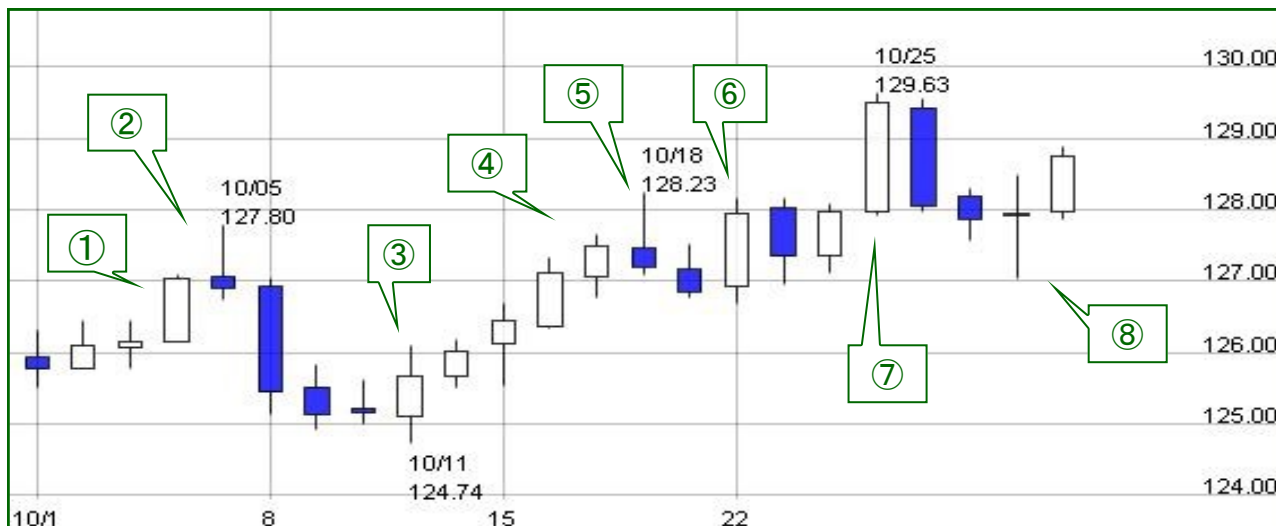
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(木)	10月中国製造業PMI	11/14(水)	9月ユーロ圏鉱工業生産
	10月米ISM製造業景況指数		10月米小売売上高
11/2(金)	10月米雇用統計		米FOMC議事録(10月23・24日分)
11/5(月)	10月米ISM非製造業景況指数	11/15(木)	第3四半期ユーロ圏GDP・速報値
11/7(水)	9月ユーロ圏小売売上高		10月米消費者物価指数
11/8(木)	欧州中銀金融政策発表	11/16(金)	10月米鉱工業生産
	9月米貿易収支	11/19(月)	10月米中古住宅販売件数
11/9(金)	10月中国消費者物価指数	11/20(火)	10月米住宅着工件数
	10月中国鉱工業生産	11/22(木)	11月ユーロ圏消費者信頼感・速報
	11月米シガン大消費者信頼感指数	11/23(金)	11月独IFO景況指数
11/10(土)	10月中国貿易収支	11/27(火)	11月米消費者信頼感指数
11/12(月)	ユーロ圏財務相会合		米地区連銀経済報告(ページブック)
11/13(火)	11月独ZEW景況感調査	11/29(木)	第3四半期米GDP・改定値
	EU財務相理事会	11/30(金)	10月ユーロ圏失業率

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# GBP/JPY

## ポンド/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	125.93円	129.63円	124.74円	128.74円



- ① 4日、「ユーロ圏は支援プログラムの下でスペイン国債への損失補償を検討」などとの報道を受けてユーロ/円が上昇すると、ポンド/円も連れ高した。NYダウ平均の上昇も追い風となった。
- ② 5日、米9月失業率が約4年ぶりの低水準である7.8%まで低下したことを好感して全般的にリスクオンになると、127.80円まで上昇した。しかし、その後NYダウ平均や原油価格が失速すると、ポンド/円も失速した。
- ③ 11日、欧州株の上昇や「ソフトバンクが米携帯大手スプリント・ネクステルの買収を検討」との一部報道をきっかけに円売りが強まったことを受け、126.11円まで上昇した。
- ④ 17日、英9月雇用統計は失業率が市場予想通りの4.8%となったが、失業保険申請件数は-4000件と、予想(±0.0件)に反して改善した上、イングランド銀行(BOE)の金融政策委員会(MPC)議事録にて「一部のメンバーはどちらかと言えば追加的な刺激策が必要になると感じている」との文言が削除されていたことから、11月緩和観測が後退。ポンド/円は反発した。NY市場で「日銀が2014年度の物価見通しを下方修正すると共に、追加金融緩和の検討に入る」との一部報道を受けて円売りが強まると、ポンド/円も上値を伸ばした。
- ⑤ 18日、タ方にメルケル独首相の「今回の欧州連合(EU)サミットは危機対応の最後の機会にならない」などとの発言を受けてユーロ/円が下げたことに連れて127.35円まで下げたが、英9月小売売上高が前月比(除自動車燃料)+0.6%と予想(+0.3%)を大きく上回ると、反発。ただ、米グーグルの決算が市場予想を下回った事を嫌気してNYダウ平均株価が下げ幅を拡大すると、ポンド/円も大きく値を下げた。
- ⑥ 22日、日銀が30日に追加緩和を決定するのではとの観測が拡がる中、まとまった規模の円売りが入ると、ドル/円が急上昇。これに連れてポンド/円も上昇した。さらにタ方、格付け会社S&Pが日本の財政赤字について「赤字トレンドが現在のままであるならば、日本の格付けを引き下げる可能性もある」などとの見方を示し、円売りが強まると、ポンド/円は128.17円まで上昇した。
- ⑦ 25日、英第3四半期GDP・速報値が前期比+1.0%と市場予想(+0.6%)を大きく上回り、ポンドは上昇。欧米株の堅調推移も相まって129.63円まで値を伸ばした。
- ⑧ 30日、日銀の金融政策決定会合が長引いたことで追加緩和への期待が高まると円売りが強まり、128.47円まで上昇。しかし、日銀が11兆円の資産買入等の基金増額を発表すると、市場予想の範囲内として円高に転換。127.03円まで値を下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## GBP / JPY

## 今月のポイント

10月のポンド/円相場は124.74円～129.63円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.2%の上昇(ポンド高・円安)となった。

この月のポンド/円は日本企業による海外企業買収、日銀の追加金融緩和、日本の格下げ懸念などの円売り材料が重なった上、英国の良好な経済指標や英中銀(BOE)の金融政策委員会(MPC)議事録を受け、追加緩和観測が後退したことなどを受けたポンド買いもあり、上昇した。

11月の英国は、資産購入枠を使い切る見通しで、これを8日のMPCで拡大するかどうかは焦点となる。10月に発表された英第3四半期国内総生産・速報値やその他主要指標に良好なものが目立ったことから、目下のところ、「資産購入枠は一旦拡大せずに様子を見るのでは？」との観測も広がっている。こうした思惑が交錯するなかで購入枠の拡大が決定されれば、ポンドには下げ圧力が掛かるだろう。他方、一部に緩和期待が残る状態で購入枠の据え置きが決定されれば、ポンドには上昇圧力が掛かる。事前の市場のムードを確認しながら臨機応変に対応する必要があるようだ。

また、引き続き欧州債務問題に絡む動きによってユーロが大きく動けば、ポンド/円にも影響しよう。特に、ギリシャとトロイカ調査団の交渉の進捗やスペインのEU/IMFに対する支援要請はあるのか、などの点に関わる報道には注意が必要だ。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 124.50～133.00円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(木)	10月英PMI製造業	11/12(月)	第3四半期日GDP・一次速報
	10月米ADP全国雇用者数	11/13(火)	10月英消費者物価指数
	10月米ISM製造業景況指数	11/14(水)	10月英雇用統計
11/2(金)	10月英PMI建設業		BOE四半期インフレレポート
	10月米雇用統計		10月米小売売上高
11/5(月)	10月英PMIサービス業	11/15(木)	10月英小売売上高指数
	10月米ISM非製造業景況指数	11/20(火)	日銀金融政策決定会合(19日～発表)
11/6(火)	9月英鉱工業生産	11/21(水)	10月日通関ベース貿易収支
11/8(木)	9月日経常収支		BOE議事録
	10月日機械受注	11/27(火)	第3四半期英GDP・改定値
	BOE政策金利発表		第3四半期米GDP・改定値
	欧州中銀金融政策発表	11/30(金)	10月日失業率
11/9(金)	11月米シガン大消費者信頼感指数・速報値		10月日鉱工業生産・速報

巻頭の特記事項を必ずお読みください。



# GBP/USD

## ポンド/ドル 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.6154ドル	1.6215ドル	1.5913ドル	1.6130ドル



①	4日、「ユーロ圏は支援プログラムの下でスペイン国債への損失補償を検討」などとの報道を受けてユーロ/ドルが上昇すると、ポンド/ドルも連れ高した。NYダウ平均の上昇も追い風となった。
②	5日、米10月失業率が約4年ぶりの低水準である7.8%まで低下したことを好感して全般的にリスクオンになると、1.6215ドルまで上昇したが、その後NYダウ平均や原油価格が失速すると、ポンド/ドルも失速した。
③	8日、東京市場が祝日で参加者が少ない中、上海総合株価指数が軟調に推移すると、ポンド/ドルも下落した。
④	17日、英9月雇用統計は失業率が市場予想通りの4.8%となったが、失業保険申請件数は-4000件と、予想(±0.0件)に反して改善した上、イングランド銀行(BOE)の金融政策委員会(MPC)議事録にて「一部のメンバーはどちらかと言えば追加的な刺激策が必要になると感じている」との文言が削除されていたことから、11月緩和観測が後退。ポンド/ドルは反発した。NY市場で「日銀が2014年度の物価見通しを下方修正すると共に、追加金融緩和の検討に入る」との一部報道を受けて円売りが強まると、ポンド/ドルも上値を伸ばした。
⑤	18日、夕方にメルケル独首相の「今回の欧州連合(EU)サミットは危機対応の最後の機会にならない」などとの発言を受けてユーロ/ドルが下げたことにより連れ安となったが、英9月小売売上高が前月比(除自動車燃料)+0.6%と予想(+0.3%)を大きく上回ると、反発。ただ、米グーグルの決算が市場予想を下回った事を嫌気してNYダウ平均株価が下げ幅を拡大すると、ポンド/ドルも大きく値を下げた。
⑥	23日、欧米株の下落に伴い、ポンド/ドルは1.5913ドルまで値を下げた。
⑦	25日、英第3四半期GDP・速報値が前期比+1.0%と市場予想(+0.6%)を大きく上回り、ポンドは上昇。欧米株の堅調推移も相まって1.61ドル台まで値を伸ばした。ただ、「格付け会社フィッチが米国の格付け『AAA』を引き下げる」との噂を背景にNYダウ平均株価が下げに転じると、ポンド/ドルも上げ幅を縮めた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。



## GBP / USD

## 今月のポイント

10月のポンド/ドル相場は1.5824ドル～1.6307ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.3%の上昇(ポンド高・ドル安)となった。

この月のポンド/ドルは、英国の11月緩和観測が後退したことでポンド/ドルに上昇圧力が掛かる場面もあったが、基本的には冴えない主要国株価の動向を受けて大きな方向感はないまま終わった。

今月は英国の資産購入枠を使いきる見通しのため、8日の英金融政策委員会(MPC)で購入枠拡大が決定されるかが焦点だ。MPC内でも英国の景気に対する見方にバラツキがあるため、発表前には様々な思惑が交錯するだろう。基本的に購入枠拡大ならポンド安、枠を据え置いたらポンド高に振れると考えられるが、発表直後はその思惑ゆえに乱高下する可能性もあり、注意が必要とみる。また、引き続き欧州債務問題に関する各種報道でユーロ/ドルやユーロ/ポンドが大きく動けば、ポンド/ドルも影響を受ける可能性があり、この点も動向には気を付けたいところだ。

ちなみに、ポンド/ドルのチャートを見ると、10月は60日移動平均線前後で下値を支えられた形になっている。地合いが悪化して、60日線を下回ると、200日移動平均線辺りまでは少なくとも下げ余地を拡大するだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 1.5800～1.6310ドル)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(木)	10月英PMI製造業		BOE四半期インフレレポート
	10月米ADP全国雇用者数		10月米小売売上高
	10月米ISM製造業景況指数		FOMC議事録(10月23・24日分)
11/2(金)	10月英PMI建設業	11/15(木)	10月英小売売上高指数
	10月米雇用統計		10月米消費者物価指数
11/5(月)	10月英PMIサービス業	11/16(金)	10月米鉱工業生産
	10月米ISM非製造業景況指数	11/20(火)	10月米住宅着工件数
11/6(火)	9月英鉱工業生産	11/21(水)	BOE議事録
11/8(木)	BOE政策金利発表	11/27(火)	第3四半期英GDP・改定値
	欧州中銀金融政策発表		10月米耐久財受注
11/9(金)	11月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値		11月米リッチモンド連銀製造業指数
11/13(火)	10月英消費者物価指数	11/29(木)	第3四半期米GDP・改定値
11/14(水)	10月英雇用統計	11/30(金)	11月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。